
マスギャザリング

(森村尚登、救急医学 40:350-354, 2016)

2017年6月30日、災害医学抄読会 <http://plaza.umin.ac.jp/~GHDNet/circle/>

マスギャザリングとは、一般的には事前に計画された、あるいは組織化されたイベントのことである。また Arbon は「アクセスの限界や環境や場所の問題で緊急時への対応が遅れる可能性がある状態」と定義している。

近年、“the Flinders University World Health Organization Collaborating Center for High Risk/Visibility Events” を中心に各国の研究者がマスギャザリング医療の対象に関わる概念整理について報告している。その中でマスギャザリング医療の対象を、マスギャザリング事態にのみならずマスギャザリングが生じた結果影響をうける集団、例えば近隣住民などを含めている。

マスギャザリングへの医療支援は、救急医療と災害医療の双方の視点から行われ、その目的は傷病者への適切な早期診療の提供と周辺救急病院の負担軽減にある。それに加え関連機関と連携した病院前対応である。

第12回日本集団災害医学会のシンポジウムにおいて、マスギャザリングの定義と医療支援にかかる7項目が提言された。①マスギャザリング（群衆）を「一定期間、限定された地域において、同一目的で集合した多人数の集団」と定義。②マスギャザリングへの医療支援の目的は傷病者への適切な早期診療の提供。③マスギャザリングへの医療支援により周辺救急医療機関業務の軽減を図る。④イベントごとのリスクに応じた医療支援体制の構築。⑤マスギャザリングの開催者に対して、リスクに応じて準備すべき医療支援体制を提示し、イベント開催の必須条件になるべき。⑥マスギャザリングへの医療支援にあたり、支援医療機関・関連組織、消防、警察、警備組織などと十分に調整を図る必要がある。⑦保険診療にかかわる法的問題を解決する必要がある。以上の7項目である。

マスギャザリング医療の特徴は地域内での集中的な人口増加に加えて、現場へのアクセスの悪さ、興奮度、気象条件、アルコールなどの因子が関与して、絶対的あるいは相対的に地域救急医療の需要不均衡が生ずる可能性を内包していることである。

またマスギャザリングに対して局所災害が起こった際に同時多数傷病者が発生する可能性を有する点である。

傷病者発生に関与するマスギャザリングのリスクファクターは、群衆サイズ、イベント会場へのアクセス、イベント期間、興奮度・熱狂度、気象条件、屋内か屋外か、群衆の移動性、アルコール・危険ドラッグの許可の有無、現場の医療班の体制、公衆衛生設備などであり、傷病者数・発生率、救急車搬送数・率、疾患内訳、重症度、CPA（心肺停止）発生率に影響を与えるとされる。

イベント開催前に医療支援計画は必ず立案されるが、その作成の段階でマスギャザリング医学に長けた医療関係者と事前協議されることはまだ国内では少ない。イベントに対する医療支援計画においてはイベントの規模に関わらず検討する項目は基本的に同じである。米国で推奨されている留意点を挙げていく。

- ① 医師による医療監督 ② 事前調査 ③ イベント医療班との連携
- ④ 診療レベル・人員確保・医療資器材・診療設備 ⑤ 搬送手段・アクセス
- ⑥ 通信体制 ⑦ 指揮・統制 ⑧ 記録

である。

今後の課題として最大の課題は、日常救急診療の貴重な担い手と資器材を「備え」のためにどの程度現場に投入するかについての明確な基準作りである。それに対して第19回日本集団災害医学会において、「我が国におけるマスギャザリングに対する現場救急医療体制の策定基準：栄スタンダード」が報告された。これは平時の救急医療におけるPPR（傷病者発生率）やTTHR（搬送率）を使用したアルゴリズムを作成して、あるべき対応を決める類型定義であり、今後の体制準備の指標の一つとして期待されている。

考察

人が多数集まるイベントの際に、その人数のサイズによって生じる地域救急医療の需要不均衡に 대응できるように事前に救急・災害医療体制を準備しておくことが必要である。この準備をしておくことで多数の傷病者が発生した場合に十分な医療を提供できるようになる。その準備段階でそのイベントの規模と同じ程度の規模のイベントが過去に行われていた場合、その医療計画及び記録は非常に有用な情報となる。それらの情報を有効に使うためにイベント開催者に事前の医療計画の存在を周知することが必要だと考えた。開催者が危機意識を適切に持っているとき安全なイベントが提供されることになり、参加者の安全のみならず適切な程度の医療が提供されることになる。

また医療計画が適正であっても、現場の医師や関連する警備、消防、警察などが連携できなければマスギャザリングへの医療支援は失敗することになる。そうならないためにも組織間の統制方法、役割分担、通信手段を事前に確認しておくことが重要である。

災害医療の場合は、多数傷病者事故に対する医療対応を教育するための教育コースであるMIMMS（Major Incident Medical Management and Support）が提唱したCSCATTTが医療の実践に役立つ。内容は指揮・統制、安全、情報伝達、評価、トリアージ、治療、搬送とイベント時の医療対応で注意すべきこととほぼ同じである。

これらの注意すべき点を理解し、マスギャザリングへの医療支援計画の必要性を周知することで多数傷病者の発生を減らすことができるのではないかと考えた。